

乳用子牛の生体機能向上による健全な哺育管理技術の開発

1 中核機関・研究総括者

千葉県畜産総合研究センター 井上 貢

2 研究期間

2006～2008 年度（3 年間）

3 研究目的

乳用子牛の哺育期の管理では、下痢等の発生率が依然として高く、発育や損耗率に深刻な影響を及ぼしており、抗菌性飼料添加物が対策として用いられているが、家畜への抗菌性飼料添加物の使用による薬剤耐性菌の出現が危惧されている。

このため、抗菌性飼料添加物に頼らずに生体機能を向上させ、同時に発育促進を目指す哺育管理技術を開発する。

4 研究内容及び実施体制

- ① シンバイオティクスの給与が乳用子牛の生体機能に及ぼす影響の解明と適切な給与技術の開発（千葉畜総研、愛知農総試、石川畜総セ、茨城畜セ、神奈川畜技セ、富山農技セ、名糖産業（株）、（独）畜草研）
シンバイオティクスを用いた乳用子牛の生体機能の向上により健全な哺育管理技術を開発する。
- ② 乳用子牛の発育促進のための適切な飼養管理条件の解明（千葉畜総研、愛知農総試、石川畜総セ、茨城畜セ、神奈川畜技セ、富山農技セ、名糖産業（株）、（独）畜草研）
乳用子牛の発育促進のための適切な栄養水準と蛋白水準を明らかし発育促進のための哺育管理技術を開発する。
- ③ シンバイオティクスを活用した乳用子牛の発育促進管理の実証（千葉畜総研、愛知農総試、石川畜総セ、茨城畜セ、神奈川畜技セ、富山農技セ、名糖産業（株）、（独）畜草研）
シンバイオティクスを活用した発育促進による哺育管理と抗菌性飼料添加物を用いた哺育管理を比較実証する。
- ④ シンバイオティクスの機能性向上のための製造条件の確立（名糖産業（株））
酪農現場での様々な使用条件を想定した、製品の開発技術を確立する。
- ⑤ 乳用子牛の生体機能を高めた発育促進のための哺育管理指針の策定（千葉畜総研、愛知農総試、石川畜総セ、茨城畜セ、神奈川畜技セ、富山農技セ、名糖産業（株）、（独）畜草研）
乳用子牛の哺育期の発育促進のための飼養管理指針を策定する。

5 目標とする成果

乳用子牛の生体機能の向上と適切な栄養管理により、抗菌性飼料添加物に依存せずに発育を促進させるための哺育管理技術が確立される。これにより、下痢等の疾病率の低減、育成期間の短縮、消費者の安全を求める生産現場の実現が期待される。

乳用子牛の生体機能向上による健全な哺育管理技術の開発

